

日本液体微粒化学会 投稿原稿割付見本 (論説, 随想, 解説, 技術資料用)

- 注 1. 本書式に従って, 原稿は, A4 版で作成する (上下 20 mm, 左右 15 mm マージン).
注 2. 原稿提出時, 図, 表, 画像の原本を所定位置に貼り込む.
注 3. 本書式は, 論説, 随想, 解説, 技術資料の場合の原稿割付見本である.
注 4. 特に指定しない本文の字体は, 全角文字: MS 明朝, 半角英数字: Times New Roman とする.
注 5. また, 用紙 1 ページは, 28 字×55 行×2 段=3080 字相当とする.

[1 行目~3 行目は空行とする] (以降, 空行は 9 ポイント, MS 明朝とする)

[4 行目と 5 行目] **題名は 14 ポイント, MS ゴシック, ボールド体, 行の中央に書く.**

[副題は 6 行目] **(副題は 11 ポイント, MS ゴシック, ボールド体, 行の中央に書く)**

[1 行あける] (題名, 副題は 1 行あたり 140 mm 以内とし, 適宜改行する)

[英文題名は 11 pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く]

**Atomization by Means of Hole Nozzle
(Theory of Atomization)**

[英文副題は 11 pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く]

[1 行あける]

[著者名は 10 pt, MS ゴシック, 行の中央に書く]

京都 太郎*,

東京 花子,

仙台 次郎

[英文著者名は 9 pt, Times New Roman, 和文著者名の真下に書く]

(Taro KYOTO)

(Hanako TOKYO)

(Jiro SENDAI)

[著者所属は 9 pt, MS ゴシック, 英文著者名の真下に書く]

京都大学

東京大学

東北大学

[英文所属は 9 pt, Times New Roman, 和文著者所属の真下に書く]

(Kyoto Univ.)

(The Univ. of Tokyo)

(Tohoku Univ.)

[2 行あける]

1. はじめに

[1 行あける]

章番号および章名は, **10 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で行の中央に書く. 第 2 章以後は, 章番号および章名の前後と本文の間は 1 行あける. ただし, 章や節が原稿用紙の最上段になった場合, 前の文章と 1 行あけず, 第 1 行目に書く. 本文は, 9 ポイント, MS 明朝で書く.

[1 行あける]

1.1 節名が 2 行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章と 1 行あけ, 行の左端より 1 こまあけて節番号を書き, 1 こまあけて節名を **10 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から 1 こまあけて書く. 新しい段落は, 1 こまあけて書く. 文章の区切りは読点としてカンマ「,」を用い, 句点としてピリオド「.」を用いる (括弧を付して補足説明する場合, この例のように, 本文の句点の前に括弧を挿入し, 括弧内の文章の最後は句点を付さない).

句読点は, 1 こま分を使用するが, 行の最後の場合に限り, 追い込んでよい (禁則処理).

文献番号は, ^{(1),(2)} (カンマで区切る) または⁽⁹⁾⁻⁽¹⁰⁾のように上付文字で書く.

1.1.1 項名が 2 行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章との間は空行を設けなくて, 行の左端より 1 こまあけて項番号を書き, 1 こまあけて項名を **9 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から 1 こまあけて書く. 項以下の区分は, (a), (b), ... などとし, その書き方は項の場合に準じる.

[1 行程度あける]

2. 図, 表の書き方

[1 行あける]

本文と図, 表の間は 1 行以上あける. また, 図番, 図題は図の真下中央に配置し, 表番, 表題は表の真上中央に配置する.

図題, 表題は英語で記述する. また, 図番, 表番は, それぞれ Fig.1, Fig.2, ... および Table 1, Table 2, ... のように通し番号として, Times New Roman で書く. 本文で引用する場合, 図 1, 図 2, ..., 表 1, 表 2, ... とする.

また, 図, 表は, できるだけ下側および右段に寄せて配置すると, きれいに仕上がる. その際, 各頁に過度な空白部分がないように注意する.

[1 行以上あける]

- この外枠は, 表示しない.
- 図中の文字は, 英語で表示する.
- 文字の大きさは, 9 ポイント以上とする.
- 文字のフォントは, Times New Roman とする.
- 図番, 図題は, 図の真下中央に英語で書く.
- 他の文献より転載した場合, 図題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する.

Fig.1 Experimental apparatus

← [脚注]

全角日本語: 9 ポイント, MS 明朝

半角英数字: 9 ポイント, Times New Roman

原稿受付: 2017 年 1 月 28 日 ← 著者が原稿提出年月日を記入

* 責任著者: 正会員, 京都大学 ← 会員資格, 所属

(〒615-8530 京都府京都市西京区 1) ← 住所

E-mail: ← 責任著者のメールアドレス

Table 1 Experimental condition

- この外枠は、表示しない。
- 表中の文字は、英語で表示する。
- 文字の大きさは、9ポイント以上とする。
- 文字のフォントは、Times New Roman とする。
- 表番、表題は表の真上中央に英語で書く。
- 他の文献より転載したときは、表題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

[1 行以上あける]

3. 式の書き方

[1 行あける]

式は、左端より3こま以上あけて書き、式番号は括弧を付して右端に書く。数学記号、化学記号は、9ポイント、Times New Roman とし、数式の書体は、以下のようにイタリック体にする。

なお、式に限り、数学記号、化学記号の種類により、読みにくくなると判断した場合、規定の9ポイントよりも大きくしてもよい(10.5ポイントから12ポイント)。

[1 行あける]

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \quad (1)$$

[1 行あける]

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \quad (2)$$

[1 行あける]

ここで、 a : 液膜の厚さ、.....

分数を書く場合、式(2)のような表記法を用いる。ただし、本文中に記述する場合、 $d(e+f)/(g+h)$ のように書く。

4. 両段にまたがる図、表または式の場合

[1 行あける]

本文、図、表、式、脚注、文献などは、原則として本原稿用紙の1段(片側)に書き、2段(両側)にまたがって書かない。ただし、図、表、または式が1段(片側)に収まらない場合、2段(両側)にまたがって書いてもよいが、この場合、[見本: Table 2]のように当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図、表によって中断されないように書く。

[1 行あける]

5. おわりに

[1 行あける]

以上述べたように、本原稿用紙を用いて執筆する際に最も注意すべき点は、読者が読みやすいように配慮することである。

[1 行あける]

文 献

[1 行あける]

文献は、以下のように文頭揃えとする。

- (1)京都太郎, 仙台次郎: 液化ブタン噴霧の特性, 微粒化, 10-5(2000), 145-148. ← [和文雑誌]
- (2)Johnson, R., Schmidt, P., Thompson, G.: Characteristics of Entrainment Spray, J. Atomization, 112 (2001), 28-30. ← [英文雑誌]
- (3)今出川一郎: 微粒化機器の設計, 京都書籍(1995), 79-82, 103. ← [和文書籍]
- (4)Smith, T. A.: Mechanism of Atomization, London Pub. Inc. (1993), 34-39. ← [英文書籍]
-途中省略.....
- (10)日本微粒化学会編: 微粒化の原理と実際, 同慶出版会 (1991), 11-15. ← [和文書籍]

図、表が2段にわたる場合の書き方は、この例による。

Table 2 Properties of *n*-pentane and *n*-heptane

- 図、表が2段にわたる場合の書き方は、この例による。
- 図、表は、当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図、表によって中断されないように書く。
- その他は、Fig.1 と Table 1 に準じる。